

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590800185		
法人名	株式会社 エポカケアサービス		
事業所名	グループホーム装束門・みどりの家		
所在地	山口県岩国市装束町4丁目10-13		
自己評価作成日	平成29年11月27日	評価結果市町受理日	平成30年4月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成29年12月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所以来、入居者様にイキイキと生活して頂ける様、午前中体操やレクリエーションを行ったり、ウッドデッキに出て庭を眺めたり、お天気の良い日には個別対応にて散歩や買い物に出かけています。午後は居室に戻られ午睡されたり、テレビを見られたり、各々ゆったりお過ごし頂いています。また、洗濯物を畳んで頂いたり、テーブルを拭いて頂いたり可能な限り出来る事をお手伝い頂き変化のある生活の提供をさせて頂きたく思っています。職員とも談話を行い一日の内関わりを持つ様努めています。ケアでは主治医と連携してホームで看取りも行っています。職員研修も行います。近所の小学校や地域との交流があり、装束町で皆で支え合いながら運営しています。運営推進会議も近隣の多職種の方々が毎回参加して下さっており、ご近所からお野菜をお裾分け頂いたり、小学生が遊びに来てくれたり、地域の中に根差したホームとなってきている事を日々感じております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は利用者一人ひとりと過ごす時間を大切にしておられ、朝のコーヒータイム、午後のおやつタイムにお茶を飲みながら、利用者のその日の体調や思いや意向の把握に努めておられ、利用者に応じた楽しみごとや場面づくりなどの個別支援につなげておられます。自室よりもホールで過ごす利用者が多く、利用者も職員や他の利用者と一緒にゆったりと過ごすその時間を楽しみにしている様子が伺えました。食事は利用者の希望を取り入れてその日の献立をたてられ、野菜の下ごしらえやお品書きの記入、おしながきの読み上げを利用者の活躍の場とされ、ランチョンマットや食事前のエプロン、食器や盛りつけにも趣向を凝らしておられ、毎日の食事を大切にされて、利用者が食事を楽しむことができるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>エポカケアの理念の他に、法人全体の運営理念として地域貢献、社会活動参加を目標に地域に根付く様計画をしている</p>	<p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、「ゆっくり いっしょに 楽しく」という言葉を法人の理念と共に玄関に掲示している。管理者と職員は常に理念を念頭において確認し合い、共有して日々の実践につなげている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域とのつながりを大切にし入居者様ととんど祭りや地域のお祭りに参加させて頂いた。イベントの有る時には地域の方がボランティアで踊りや、銭太鼓など披露して下さい。また、ホームで開催の夏祭りやバザーに近隣の方に来て下さる。</p>	<p>自治会に加入している。利用者は、地域主催のとんど祭りに出かけてぜんざいや甘酒を食べたり、盆踊り大会に参加して地域の人と交流している。事業所の夏祭りやバザーは、チラシを自治会に回覧したり、近所の店に掲示しており、地域の人や小学生、中学生などの参加があり、利用者との交流している。月2回の音楽の会やお茶の会、コーヒー喫茶、婦人会の銭太鼓、踊りや演芸一座などのボランティアの来訪がある。毎年地元の小学生(6年生)の訪問があり、初回は顔合わせと施設の説明、2回目は管理者とユニットリーダーが小学校で認知症サポーター養成講座を開催、3回目は小学生が訪問してハンドベル演奏や手話による歌を披露して利用者との交流を深めている。散歩時や近くのスーパーで買い物時には近所の人と挨拶を交わしたり、野菜の差入れがあるなど、日常的に交流している。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>近くの小学校との交流会を年3回以上行っており、認知症サポート養成講座を行った。地域のお好み焼き店へ注文し配達して頂いた際、話をしたり夏祭りのポスターを貼らせて頂いている</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価の実施に伴い、意義を職員に伝え、意見を出し合い、ご家族へも家族会を通じ結果や課題など詳らかに報告。課題に関しては改善努力を職員一丸となって取り組んだ、	管理者は評価の意義を職員に説明し、自己評価するための用紙に職員が記入したり、聞き取った意見をユニットリーダーがまとめ、管理者が検討して作成している。評価を通して地域との協力体制の構築を課題にあげ、行事のチラシを自治会に回覧したり、地域の店舗に掲示したり、近所の人に直接声かけているなど、改善に向けて取り組んでいる。	・評価項目の理解 ・全職員による評価の取り組み
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様のご様子やホームの取り組み、ひやりハットの報告等している。毎回出席頂いた方からご意見や提案を頂い通り、ケア向上や改善に反映させて頂いている。厳しいご意見もあるが真摯に受け止めケア向上サービス向上に努めている	会議は2ヶ月に1回開催し、入居者の状況、活動報告、行事予定、ひやりハット・事故・苦情報告、事業所の課題などを報告して、質疑応答、意見交換を行っている。参加者からは会議の資料が詳しく施設の現状がわかりやすいという意見や看取りや災害対策について率直な意見や気づきの発言があり、ケアの向上や改善に反映させている。家族には年2回の家族会で、運営推進会議の資料を使って報告しているが、会議への参加はない。	・家族の参加の工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町担当者とは、毎回運営推進会議に参加頂き、ホームに対して貴重なご質問やご意見を頂いています。空室や入居者様の状況などの相談や、地域の状況など相談させて頂いている	市担当者とは、毎月空き状況を報告し、直接出向いて相談している他、電話やFAX、メールなどで連絡を取り合い、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員は、運営推進会議時に意見交換や情報交換を行い、認知症サポーター養成講座開催の相談をしているなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠については開所以来日中は施錠を行っていない。身体拘束・虐待については、職員が毎月ミーティングの時にケア向上委員会を開き、正しく理解し、不適切なケアや虐待についての勉強の場を持っている。	職員は毎年法人より指示のある高齢者虐待、身体拘束をテーマに内部研修で学んでいる。毎月のミーティングでは「ケア向上委員会」の委員が中心となって、不適切なケアや虐待などテーマを決めて10分から15分程度の研修を行い、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	7と重なるが毎月研修を行っており、職員一人一人の意識も高く、不適切なケアに繋がりがちな対応が見られた場合、職員同志で速やかな注意、改善を行うなど出来る環境を作っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の中に成年後見人制度を利用されている方がおり、制度については折りに触れ職員に伝える様になっている。また、ご家族様からご質問の有る場合に備え、職員間で学ぶ機会を持っている		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は文書の読み合わせを丁寧に行い説明している。疑問点などはその都度、納得されるまで説明し、理解をして頂ける様努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また、ご家族様から直接職員にご意見を頂き、それをホーム内、グループ内で報告、提議し検討している。運営推進会議、家族会でも報告を行い、ご意見を頂き運営に反映させている	苦情の受付体制や処理手続きを定め、利用者や家族に契約時に説明している。玄関に意見箱を設置している。面会時や電話時、家族会参加時に家族からの意見や要望を聞いている。居室の掃除や職員の処遇改善について意見があり、掃除の時間や担当を見直すなど業務改善につなげている。毎月の事業所だよりに加えて、担当職員が利用者の体調や日頃の様子を手書きした写真入りの手紙を送ったり、面会時には利用者の様子を伝えているなど話題のきっかけづくりを行い、家族の意見が言いやすい工夫をしている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案はその都度皆で話し合い、運営に全員で取り組む姿勢を継続している。また、管理者による年2回の社員面談や本社顧問による年1回の全職員の面談が有り意見や提案をじっくり聞く機会を設けている。	管理者は5月と10月に人事考課として職員と個別面談を行い、毎月のミーティングや申し送り時等で職員の意見や要望を聞いている。他、日常の業務の中でも聞いている。管理者は毎月法人の会議に参加し、年1回法人と管理者の個別面談があり、職員の意見を伝えている。職員からの意見や要望はその都度職員間で話し合い、運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社員は年2回の考課表を作成し、個人目標の設定や達成などを記入している。また努力や実績を本社に報告している。職員同志でお互いの知識などを学び合い、ケア向上に努めるとともにやりがいをもちケアに取り組めるようにしている		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人教育には、本社での基本教育研修やチューター制度を取り入れ、不安なく働ける様努めている。また毎月内部研修を行い、外部研修の案内を告知し参加を勧め、個人のスキルアップを図っている	職員に外部研修の情報を伝え、勤務の一環として受講の機会を提供している。実践者研修に1名参加し、受講後は報告書を提出し、復命研修を行って職員間で共有している。岩国地区事業所内で事例検討会を開催し、協力医療機関の医師も参加している。夜勤者は広島地区の研修に参加したり、DVDの記録で学んでいる。法人から人権擁護、感染症予防、認知症の理解とケア、リスクマネジメントについては、年1回以上の研修を行うよう指示があり、それ以外にも脱水予防、介護技術、看取りなどをテーマに内部研修を行ったり、外部講師を呼んで睡眠について研修している。新人教育は、本社での1日研修やチューター制度を取り入れている。資格取得は法人本社での勉強会や試験日の勤務調整を行うなどして支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部での研修への参加を勧めたり、他施設同業者のホーム見学等、歓迎し受け入れている。グループ全体で事例検討会を開催した。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居の前からご家族様、ご本人担当ケアマネから話を伺いながら、質問にお答えし、職員間で検討し、ご本人の思いを尊重したプランを作成、ご入居した後も安心してお過ごし頂ける様信頼の有る関係性を築く様努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	16と同様、ご家族様の思いをじっくり伺い、ご本人のホームでの生活を一緒に支えて頂ける様信頼関係の構築に努めている。要望等に必ずお伺いし、納得の行くまで説明をさせて頂く様心がけている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご家族や本人の思いを伺い必要とされている支援を適切に提供できる様努めている。また以前からの習慣だった事の継続やご家族から伺った事を参考に支援させて頂いている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様との関係において一方的な関係でな、人生の大先輩であり共に生活し支え合う人としての関わりを大切にするよう伝えている。また残存機能を最大限に活かし暮らしを共にしている		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃より意見や要望等に耳を傾け、また、受容的な態度で要望等言いやすい雰囲気を作り、共に生活し支え合う人としての関わりを大切にするよう伝えている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人と交流のあった知人や友人、親戚などとの交流を大切にし、面会や電話での会話など支援している	家族の面会や親戚の人、近所の人、知人、中学時代の同級生、馴染みの化粧品販売員などの来訪がある他、手紙や年賀状のやりとり、電話の取り次ぎ、携帯電話使用の支援をしている。馴染みのスーパーマーケットや散歩に出かけて近所の人と交流している。家族の協力を得て自宅への外泊、外出や法事への参加、お墓参りに出かけるなど馴染みの人や場との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を職員が把握しており、会話の間をとりもったり、トラブルになりそうな時は間に入って未然に防げる様配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス修了者になられた後も、ホームへ来て下さったり、ご家族とは良い関係を保ち電話やメールで近況を伺う事もある。また知人で困っている方がいると相談を頂く事もある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人一人の思いや希望を受け止め、ご家族様と相談しながら出来る限り叶えることが出来るプランを計画している。困難な場合でも何度でも話し合いを行い寄り添うケアを心掛けている	入居時の「何でも情報シート」「今までの生活について」の記録を活用している他、法人独自のアセスメントシートを活用している。朝のコーヒータイムや午後のおやつタイムを利用して利用者一人ひとりとゆっくりと関わり、日ごろの関わりの中での利用者の言葉や表情は個人記録に記入して、職員間で共有して、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族と相談し、職員が本人の視点に立って話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話の中からこれまでの経過等良く伺い、面会時にご家族から伺ったりしている。また知り得た情報は個人ファイルやユニットノートに記入し職員間で共有するようにしている		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間での申し送りを毎日行い情報を共有している。ユニットノートに心身状態や現状についてなど記入するようにしており、職員全員での把握に努めている		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングの際、職員全員の意見を聞き、またご本人やご家族様へも説明の際に要望や意見を伺いプランに反映する様努めている。何かあればその都度その人に寄り添うケアを考案し介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となって、本人や家族の意見や要望、主治医、看護師、職員の意見を元に話し合い、本人の視点にたった介護計画をたてている。職員の日々の記録を元に毎月モニタリングを行い、利用者の状態が変化した場合や本人、家族の要望が生じた場合はそのつど介護計画の見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録へはケアプランに基づいた記録以外に、気づきや特記事項も記入している。また申し送りやユニットノート等で情報共有を図っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況変化に伴い新しく発生する入居者様やご家族のニーズに対応出来る様、“こうしなくてはならない”と言う考えに捉われることの無い様職員全員柔軟な姿勢を心掛けている		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関わりを大切にしながら地域住民や小学生との交流、地域御霊への参加を継続している		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	急な体調変化には電話での指示や往診等迅速に対応して頂いており、職員やご家族からの信頼も厚い。ご家族へは都度電話やお手紙にて体調の事をお知らせするようにしている	協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受けている。診察時は法人看護師が付き添い、利用者の健康状態を把握している。歯科は希望に応じて訪問診療と外来受診を支援している。他科受診は、家族に利用者の日頃の様子を記録したものを渡し、家族の協力を得て支援している。職員が他科受診した場合は、その都度家族に電話で報告している。緊急時や夜間は看護師がオンコール対応をしており、電話での指示や往診依頼など適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化や、ケアについての情報や気づきを訪問看護師に伝え相談を行い職員の不安の軽減につなげている。他の看護師とも連携を取り、適切な訪問診療や受診がうけられる様努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は速やかにサマリーの作成を行い情報提供に努めている。入院中も管理者やケアマネが面会し状況を伺い、地域連携室とも連絡を取り退院前面談を行っている。ご家族とも話し合いの機会を持ちホームに戻りたいとの希望を頂ける		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについて終末期自身がどうありたいかを入居者様から伺い書面で残し、ご家族にも伝えている。ご家族へは看取りの意向確認書を書いて頂いているがいつでも変更可能な事を伝えている。看取りの際、ご家族、医師と状態に応じてこまめに連絡を取り合いチームケアを行った	家族には入居時に「看取りに関する指針」について説明し、その時点での「看取りに関する確認事項」への記入を依頼している。本人には日常のかかわりの中で希望を聞いて、「ハッピーエンド計画」に記入している。実際に重度化した場合は、主治医と家族、職員が話し合い、看取り介護を希望する場合は、主治医からの説明後に「看取り介護についての同意書」を受け取り、関係者が方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。マニュアルがあり、職員は内部研修で定期的に研修している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	定期的に救急救命処置を全員が受けている。またバイタル変化への対応の仕方はホーム内研修で行っている。事故防止については毎月ヒヤリハット検証を行い事故防止に努めている	対応した職員が報告書に記録し、全職員が早急に状況と対策を確認し、必要に応じてフロアミーティングを行っている。事故報告書は概要、原因分析、事故後の対応を記録して法人本社に報告している。毎月のミーティングで委員が担当して「ヒヤリ・ハット、事故検証」を行い、再発防止に努めている。看護師を講師として感染症や膀胱炎について研修をしたり、緊急時や急変時は看護師の指示を得て応急手当や初期対応を行っているが、全職員が実践力を身につけているとはいえない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の実施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震や水害時にはホームが地域の一時避難場所となるよう、備蓄食料や物品の備えを本社と連携して進めている。今後の防災の有り方を運営推進会議で協議させて頂いている事継続。	防災委員が中心となって、年1回は消防署の協力を得て、もう一回は事業所独自で、昼と夜の火災を想定した避難誘導、消火訓練、通報訓練を利用者と一緒に行っている。運営推進会議で地域住民の参加を呼びかけているが、参加は得られておらず、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月のケア向上委員会(虐待防止委員会)で入居者様への対応が不適切なものになっていないか自己チェックしたり対応について学んでいる。また、職員同志で声をかけ合いケア向上に努めている	職員は内部研修で接遇について学び、毎月のミーティングでケア向上委員が中心となって不適切なケアをテーマとした研修を行っている。利用者一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保について考課シートを用いて自己チェックをして、誇りやプライバシーを損ねない、言葉かけや対応をしている。気になる対応を見かけた時は職員同士で注意し合っている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様一人一人が思いや希望を自由に表せる様な雰囲気作りや遠慮のいらぬ関係性作りを職員一同心がけている。また自己決定が出来るよう主体は入居者様である事を常に念頭に置き、意向を伺う対応を心掛けている		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝、ユニットの入居者様とその日の職員が顔を合わせコーヒー等を飲みながら、今日したい事や食べたい物等を談笑しながら決める様にしている。その人のペースに合わせるケアを行い希望にそって支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服の組み合わせを一緒に考えたり、定期的な理美容でカットや髪染め等のおしゃれを楽しんでおられる。ご家族様から送られる衣類などをとても喜んでおられ、その都度話題を全員で共有し談笑の場とさせて頂きおしゃれに過ごして頂く			
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日食べたい物を伺ってメニューを決めたり、嗜好に合わせた食事の提供に留意している。できる方には盛り付けや配膳食器洗いなどお願いし行っている。お品書きを書いて頂き食事前の読み上げが楽しい食事の演出となっている	利用者の希望を取り入れた献立をたて、冷蔵庫の中にある食材や近所の人や家族からの差入れ(松茸、栗、筍、蓮根、柿、干し柿など)を使って三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者は、牛蒡のささがき、野菜の皮むきなどの下ごしらえや米とぎ、盛りつけ、食器洗い、お盆拭きなどできることを職員と行っている。毎日、紙に食事のお品書きを書いて、食事の前に読み上げる利用者もいる。利用者と職員は同じテーブルを囲んで会話をしながら食事を楽しんでいる。おせちやおもち、節分の巻きずし、ひな祭りのちらし寿司、七夕のそうめん、クリスマスのケーキ、年越しそばなどの行事食や誕生日の手づくりケーキとちらし寿司や赤飯、おやつづくり(あんまん、おはぎ、桜餅、ぜんざい、水ようかん、お好み焼き、白玉団子など)、外食(ファミリーレストラン、ホテルでの家族会、岩国寿司、菜食レストランなど)、近所のお好み焼き屋のテイクアウトなど、食事が楽しみなものになるように様々な支援をしている。		
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の必要な食事量は体重変化から考察し適切な提供となる様努めている。水分や食事量は毎食チェック、記録している。水分不足にならない様手作りの経口補水液、お茶ゼリーなどでこまめな水分補給を心掛けている。入居者様に応じ、刻み食、トロミをつけたり工夫している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝前はともより、毎食後にうがいや歯磨き、高級スポンジによる口腔ケアを行っている。義歯の方は毎食後洗浄を行い、就寝前に洗浄液につけさせて頂いている。必要に応じて訪問歯科診療を受け治療を行っている		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄について、傾向や時間を把握し、適切な声かけや誘導で失敗を防ぎ、入居者様の尊厳を守れるよう支援している。トイレでの排泄を支援している	排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、適切な声かけや誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬に頼らない便秘対策として、オリゴ糖、ヨーグルト、オリーブオイルの摂取を試みている。また水分のこまめな摂取や、毎日のラジオ体操、ストレッチなどにも留意している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	今現在、午前中の中の入浴を主とさせて頂いているが、その日の体調、ご希望などにより、時間をずらす等配慮している。また、強要することなくご本人の思いを尊重するように努めている	入浴は毎日、9時30分から11時30分までの間可能で、利用者一人ひとりの希望に応じて入浴を楽しめるように支援している。希望があれば午後の入浴にも対応している。入浴したくない人には、時間をずらしたり、職員を交替するなどして、本人の思いを尊重して対応している。体調に応じて、シャワー浴や足浴、清拭を行ったり、柚子湯や菖蒲湯、入浴剤などで入浴が楽しめるように工夫している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の状況や希望に応じて居室で休んで頂いたり臥床して頂く等配慮している。夜間不眠の方へはじっくり話を伺ったり温かい飲み物の提供など行っている。高齢化に伴いご本人の生活スタイルに合わせて起床就寝時間等を変更している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい薬の処方があった際は申し送りやユニットノートなどで情報の共有を図っている。またミーティング時処方薬や病状について情報共有している。訪問診療や往診の際は処方薬や状態について看護師や薬剤師から説明があり職員皆が確実に周知出来るよう申し送っている		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人一人の生活歴や趣味・嗜好などを把握し役割をお願いしたり談話の際知識を教える等ハリがある生活を送れるよう支援している。97歳で毎日家事をされている方がおられ生き生きとされご自分の役割だと認識されている	朝のコーヒータイム、午後のおやつタイムを利用して、利用者一人ひとりの生活歴や趣味、嗜好を把握して役割や楽しみごとの場面づくりに活かしている。ぬり絵、貼り絵、折り紙、季節の飾りづくり、カレンダーづくり、テレビやDVD(歌、時代劇、寅さんなど)視聴、新聞や雑誌、本(詩集、絵本)を読む、習字、書き初め、漢字ドリル、計算ドリル、点つなぎドリル、ラジオ体操、口腔体操、演歌体操、将棋、ジェンガ、風船バレー、ボーリング、ボランティアの出し物、小学生の訪問、職員の出し物などを楽しんだり、野菜の下ごしらえ、盛りつけ、食器洗い、テーブル拭き、お品書きの記載と読み上げ、草取り、花や観葉植物の水やり、裏庭の花や職員持参の花を生ける、洗濯物干し、洗濯物たたみ、モップかけなど活躍できる場面づくりをして、張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日ではないが天気の良い日は散歩に出かけたり、買い物支援も行っている。家族会での外出や、近場へのドライブなども行い季節を肌で感じて頂ける支援をしている。ミーティングで職員でその月の計画を話し合い、外出支援を行なえる様努めている	近くの神社や事業所周辺への散歩、近所のスーパーへの買い物、和木駅や川西駅の朝市、季節の花見(桜、菜の花、バラ、紅葉など)で錦帯橋や蜂ヶ峰公園、宮島へ出かけている。家族会行事でホテルに出かけたり、家族の協力を得て、自宅への外出や外泊、法事や墓参りに出かけている。見テイングで話し合い、故郷の両親の墓参りや花好きな人への支援など、一人ひとりの希望に寄り添いながら個別の外出支援ができるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームでのお金の所持はして頂かない事になっているが、入居者様によっては強い希望があったり、お金を所持しない事で不穏になられる方もおり、その場合は所持して頂いている。所持される事により平穏に過ごされている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられる方は、ご家族とのやり取りを自由にされている。又ほかの方も定期的にご家族から電話があったり、希望時は事務所の電話を使用して頂いている。母に日等にお手紙を頂いた際、お返事を書いて頂いている		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やトイレなど、職員がこまめに季節の花を活け、裏庭の花を摘んで活けて下さる入居者様もおられる。毎月のカレンダーや窓飾りを入居者様と一緒に作成している。食事の時や集中して何かを作成されている時等静かな音楽をかけるようにしている	玄関先には色とりどりの季節の花のプランターと職員の家族が差し入れた葉ボタンの鉢が置いてあり、玄関の中はシクラメンの鉢植や観葉植物、クリスマスの人形を飾り季節感を感じることができる。ユニット間にある中庭には観葉植物を置き、太陽の光が差し込んで、居間や台所は明るく、デッキに出て水やりをしたり、ひなたぼっこを楽しむことができる。壁には季節感のある利用者の作品や利用者の写真、職員が書いた利用者の似顔絵や絵画が飾っており、洗面台やテーブルには職員が持参した花や畑に咲いた花が生けてある。台所からは食事の支度をする音や匂いがして生活感がある。温度や換気に配慮し、ゆったりとしたソファに腰掛けてテレビを見たり、水槽の金魚を眺めたり、縁側のベンチでは外の景色を楽しみながらおしゃべりをしているなど、利用者が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様は思い思いの場所で過ごす事が出来ている。時には自室で静かに過ごされたり、気の合う方と談話したり職員と作業を楽しまれる方もいる。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、自宅で愛用していた物や家具を持ち込んで頂いたり、テレビやアルバムなど本人が居心地よく過ごせる空間づくりに配慮している	テレビ、整理ダンス、籐のダンス、机、イス、鏡台、衣装掛け、仏壇など自宅で使い慣れたものを持ち込み、家族の写真やカレンダー、書道の作品、アルバム、ぬいぐるみ、化粧品、ドライフラワー、職員からの誕生日プレゼント、色紙など本人が好きなものを飾って、居心地良く過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は生活しやすい様に、明るく、ゆとりある空間が保たれている。安全面に配慮し、転倒につながりそうな物の撤去や暮らしやすい環境作りに配慮している。手すりを持ち歩行される方、歩行器をお使い頂く方もおられ出来る限り自立歩行を保つケアを心掛けている		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム装束門・みどりの家

作成日：平成 30 年 4 月 17 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	50	外出計画を立て、実行に移しているが、外出困難な入居者様への外出回数が少なく、行動に移すための対策などが問題点であり課題と思われる	毎月のミーティングで立てた外出支援計画を実行する	天候などに左右される案だけでなく、出かける事がすぐに出来る体制を整え、フットワークを軽くし、入居者様に変化の有る暮らしを味わって頂くように、職員一丸となって取り組む	1年間
2	36	地域との協力体制の構築	ホーム行事や防災訓練など等の案内を地域へ発信し協力を得られるよう働きかけを継続して行う。地域の行事や自治会などに参加することで地域との関わりを構築する	地域の回覧板などにホームの行事や防災訓練を実施する際の案内を掲示配布する。近所の方々には直接、声をかける。地域の行事に参加して認知と理解を得られるよう働きかける。運営推進会議においても協力の声かけを継続する	1年間
3	4	評価と意義の理解	全員での外部評価に対する目的と内容を共有し事務所全体で各自の評価を行う	自己評価票をミーティングで全職員と協議し各職員で確認、閲覧できる様公表を行い取りまとめる。外部評価の重要性を確認する	1年間
4	15	系列ホームとの連携は密であるが、同業者との交流など更に積極的に行う必要がある	外部での研修に参加したり、他施設同業者のホーム見学など行う。他施設からの見学をして頂く事などアピールを行う	他施設との交流を積極的に行い、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問を行う。他施設にパンフレットを持参させて頂いたり、顔の見える交流を行う	1年間
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。